

機関番号：14401

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20530272

研究課題名 (和文) 地方財政におけるソフトな予算制約問題の理論的実証的検討

研究課題名 (英文) Theoretical and empirical analysis of soft budget constraint problem in local public finance

研究代表者

赤井 伸郎 (AKAI NOBUO)

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授

研究者番号：50275301

研究成果の概要 (和文)：地方財政およびそれを支える補助金の肥大化・非効率化を招いた根本的なメカニズムを理解するため、「ソフトな予算制約」という概念を用いて、理論的・実証的にそのメカニズムや実態を把握した。具体的には、これまで明らかにされてこなかったメカニズムを解きほぐした理論的研究を海外の雑誌に、また、応用として、日本のデータを用いた実証分析を、国内外の雑誌に発表した。

研究成果の概要 (英文)：This research clarifies various mechanisms behind soft budget constraint problem in the context of local public finance. The outcomes from this research have been published in various domestic and international journals, including the top journal in the field of urban economics.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・財政学、金融論

キーワード：地方財政、ソフトな予算制約、理論分析、実証分析

1. 研究開始当初の背景

近年、地方財政およびそれを支える補助金の肥大化・非効率化を招いた根本的なメカニズムを経済学的に理解するためのひとつの概念としての「ソフトな予算制約」に関する研究が海外で盛んになりつつある。「ソフトな予算制約」とは、一言で言えば、事後的な予算制約が裁量性に任され、補助金が事後的に変更される可能性があるということである。そのような状況下では、事前段階での努力インセンティブが阻害される可能性があり、そこで生じる効率性の問題は、「ソフト

な予算制約」問題と呼ばれている。しかしながら、この問題の事例は数多く議論されているものの、理論的・実証的な検討は十分になされていない。

現在、「ソフトな予算制約」問題は、大きな問題としてさまざまな分野での研究に影響を与えているが、この議論は、契約理論の分野で展開されてきた「コミットメントの欠如」(Lack of Commitment)の問題との融合によって、より厳密的な理論分析へと進展することになった。

我が国の地方財政制度を見れば、現在、危機的狀態にある。地方政府部門の債務残高

(普通会計分)は2007年度末で199兆円にも達する見込みである。夕張市の破綻からも分かるように、このように地方財政が悪化した背景には、国から地方に流れる補助金に潜む「ソフトな予算制約」問題があると考えられる。政府もこの問題を重要課題として捉え、地方財政の抜本改革に向けた取り組み(通称:「三位一体改革」や「地方分権改革推進法」、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」など)を行っている。このような状況を踏まえると、日本の的確な財政制度の設計が必要である。この視点から、これまでに、研究代表者自身で、展望論文としての赤井伸郎(2006)や、理論研究としてのAkai and Silva(2007)、実証・制度研究としての赤井伸郎・山下耕治・佐藤主光(2003)[2004年度「日経・経済図書文化書」受賞]を行ってきた。これまでの経験を踏まえ、海外で研究されている「ソフトな予算制約」問題を理論的にさらに整理・発展させ、日本の制度設計に活かす必要があると考えるようになった。

2. 研究の目的

本研究では、近年、注目を浴びている「ソフトな予算制約」問題に着目し、これまでなされてきた研究を整理し、新たな視点から理論的に貢献するとともに、実証分析を通じて、日本の地方財政制度の設計のあり方に向けた政策提言を行うことを目的とする。

「ソフトな予算制約」に関しては、近年、いくつかの研究がなされているが、研究の方法などに統一性は見られず、それぞれの研究の貢献が、どのような位置づけでなされているのか、それぞれのモデルの違いが根本的にどのような理論的構造に依存しているのかは明らかとはなっていない。本研究の理論研究部分では、これらの課題を明らかにすることで、ソフトな予算制約問題の分野での世界的貢献を生み出す予定である。

さらに、この理論的研究は、日本で生じるさまざまなソフトな予算制約問題に関して、解決への糸口を見つけ出すことを可能とする。地方の財政組織間にはさまざまな補助制度があり、それらは必要であるものの、制度の不備が問題を引き起こしている。具体的には、地方政府、地方政府に付随する組織として公営企業、さらに、外郭団体としての地方公社・第三セクターに関して、補助制度・債務調整に関わるインセンティブ問題などが実質的にこの問題と関わる。

本研究の実証研究部分では、これらの分野における事例と、実証研究部分で得られたモデルを融合し、それぞれの組織のインセンティブを保ちながら適切な補助を行う制度を導出し、今後の制度設計の提言を行う。

3. 研究の方法

本研究は、大きく、二つのアプローチをとった。第一は、世界で行われているソフトな予算制約問題の課題を整理し、新たな視点から世界的貢献を目指す理論的検討であり、第二は、日本の地方財政制度設計に関わる実証的検討である。

(1) 「ソフトな予算制約」国際ワークショップの開催。

第一線で活躍する研究者を集めたシンポジウムを開催し、「ソフトな予算制約」についての学術的議論を集中的に行い、日本の研究者・政策担当者によるその論点を整理してもらう機会を与える。

(2) 理論分析: 課題の抽出および最先端の理論を越える理論モデルの構築による世界的貢献

これまでの先行研究における課題を抽出し、その中で検討されていない課題、更なる検討を必要とする課題に関して、新たな理論モデルを構築し、世界的な貢献を行う。その後、学会などの機会を活かして、随時、専門家と意見交換を行う。

(3) 実証研究: 日本の制度の実態・課題把握と日本の地方財政制度の潜むソフトな予算制約問題の検証

日本の地方財政におけるソフトな予算制約の事例、先行研究を調査するとともに、制度における課題を吟味し、ソフトな予算制約問題の検証および解決策を探る。

4. 研究成果

以下のワークショップおよび研究を行った。

(1) 「ソフトな予算制約」国際ワークショッププログラム

日時 : 2008年6月25日(水) 13:00分
~17時30分

場所 大阪大学大学院国際公共政策研究科 6F 会議室

開催の目的

夕張市の破綻を機に、国が地方をいかにガバナンスするのが問われている。財政危機に陥った自治体を救うべきか、債務調整を行うべきであるのかが、議論の重要なポイントである。これは、国が事前の契約にコミットメントできるのかどうか、できない場合に生じる問題は何かなどに関する問題であるが、経済学の分野では、「ソフトな予算制約」問題

と呼ばれている。近年、この分野での研究が学術的に議論され始めてきた。このような状況下において、「ソフトな予算制約」についての学術的議論を集中的に行うことは、日本の研究者・政策担当者にその論点を整理してもらう機会を与えるという点で価値があると思われる。そこで、第一線で活躍する研究者を集めたシンポジウムを開催する。

13:00-14:00 REGISTRATION

14:00-15:10

Title: "Overlapping soft budget constraints" [PDF]

(Joint with Marianne Vigneaultz)

Speaker: Marie-Laure Breuille
Researcher, INRA

15:10-16:20

Title: "Soft Budget Constraint and Equalization" [PDF]

Speaker: Switzerland Emmanuelle
Taugourdeau

CNRS, CES, University of Paris 1, France

16:30-17:40

Title: "The Timing of Elections: A Disciplining Device against Soft Budget Constraints in Federations?" [PDF]

(Joint with Emmanuelle Taugourdeau)

Speaker: Karolina Kaiser,
Munich Graduate School of
Economics

(2) 理論分析：課題の抽出および最先端の理論を越える理論モデルの構築による世界的貢献

これまでの先行研究における課題を抽出し、その中で検討されていない課題、更なる検討を必要とする課題に関して、新たな理論モデルを構築し、いくつかの論文を執筆した。その後、学会などの機会を活かして、随時、専門家と意見交換を行い、2011年3月現在、それらの論文は、海外雑誌にすでに掲載されたり、掲載が決定したりしている。〔雑誌論文〕の欄を参照。）

(3) 実証研究：日本の制度の実態・課題把握と日本の地方財政制度の潜むソフトな予算制約問題の検証

日本の地方財政におけるソフトな予算制約の事例、先行研究を調査するとともに、制度における課題を吟味し、ソフトな予算制約問題の検証および解決策を探る、いくつかの

論文を執筆した。それらの論文は、①地方分権に潜む問題、②国と地方間の税制に潜む問題の検証、③国立大学の予算に潜む問題の検証、④会計制度に潜む問題の検証、などであり、国内外の雑誌に掲載された。〔雑誌論文〕の欄を参照。）

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

① 赤井伸郎、大川裕介、バランスシート・行政コスト計算書による財政評価－大阪府の事例－、会計検査研究 No. 43, (2011)、87-109. 査読有。

② Nobuo Akai, Hikaru Osaga, Yoshitomo Osgawa, Endogenous Choice on Tax Instruments in a Tax Competition Model: Unit Tax versus Ad Valorem Tax, forthcoming to International Tax and Public Finance, (2011). 査読有。

③ Nobuo Akai, Motohiro Sato, A Simple Dynamic Decentralized Leadership Model with Private Savings and Local Borrowing Regulation, forthcoming to Journal of Urban Economics, (2011). 査読有。

④ 赤井伸郎、金坂成通、宮下量久、垂直的租税外部性効果と経済成長、財政研究 (2010)、118-130. 査読有。

⑤ 赤井伸郎、中村悦広、国立大学法人化によるガバナンスと財務運営－法人化後の大学内部のガバナンス改革は大学財務運営の改善に寄与するのか－ 国際公共政策研究、第15巻第1号、(2010)、1-18. 査読有。

⑥ Nobuo Akai, Hiroshi Osano, Mizuno Keizo, Incentive Transfer Schemes with Marketable and Nonmarketable Public Services, Journal of Institutional and Theoretical Economics Vol. 166(4), (2010), 614-640. 査読有。

⑦ Nobuo Akai, Masayo Hosoi, Fiscal Decentralization, Commitment and Inter-County Inequality in US states, Journal of Income Distribution Vol. 18, No. 1: March, (2009)、113-129. 査読有。

⑧ Nobuo Akai, Motohiro Sato, Too Big or Too Small? A Synthetic View of the Commitment Problem of Interregional Transfers, Journal of Urban Economics, Volume 64, Issue 3, November, (2008), Pages 551-559. 査読有。

〔学会発表〕(計 13 件)

- ① 赤井伸郎、バランスシート・行政コスト
計算書から見た大阪府財政の現状、日本地方
財政学会、2010. 06. 19、青山学院大学
- ② 赤井伸郎、地方公共団体の文化関係予算
(芸術文化経費・文化財保護経費) の決定
要因分析、日本地方財政学会、2010. 06. 19、
青山学院大学
- ③ 赤井伸郎、提言：「地域主権」実現のため
の一括交付金の導入、日本地方財政学会、
2010. 06. 19、青山学院大学
- ④ 赤井伸郎、Endogenous Choice on Tax
Instruments in a Tax Competition Model:
Unit Tax versus Ad Valorem Tax、Workshop
in Public Economics、2010. 04. 14、Paris、
France
- ⑤ 赤井伸郎、Endogenous Choice on Tax
Instruments in a Tax Competition Model、
日本財政学会、2009. 10. 17、明治学院大学
- ⑥ 赤井伸郎、税目別地方分権度と経済成長、
日本財政学会、2009. 10. 17、明治学院大学
- ⑦ 赤井伸郎、Soft budgets and local
borrowing regulation in a dynamic
decentralized leadership model with
saving and free mobility、IEB III
WORKSHOP ON FISCAL FEDERALISM
2009. 06. 18、Barcelona、Spain
- ⑧ 赤井伸郎、Soft budgets and local
borrowing regulation in a dynamic
decentralized leadership model with
saving and free mobility、日本経済学会春
大会、2009. 06. 06、京都大学
- ⑨ 赤井伸郎、人口減少と少子高齢化が地方
財政収支に与える影響の分析、日本財政学会
2008. 10. 25、京都大学
- ⑩ 赤井伸郎、国立大学運営費交付金の実態
と評価－独立行政法人化以後の交付金の要
因・影響分析－、日本財政学会 2008. 10. 25、
京都大学
- ⑪ 赤井伸郎、Interregional
Redistribution as a Cure to the Soft Budget
Syndrome in Federations Extension、
Conference of Public Economic Theory 08、
2008. 06. 27、Seoul、Korea、
- ⑫ 赤井伸郎、人口減少と少子高齢化が地方

財政収支に与える影響の分析、日本地方財政
学会、2008. 05. 31、大東文化大学

- ⑬ 赤井伸郎、地方道路公社の保有する有料
道路の効率性と政策コストの要因分析、日本
地方財政学会、2008. 05. 31、大東文化大学

〔図書〕(計 1 件)

- ① 赤井伸郎、有斐閣、交通インフラとガバ
ナンスの経済学－ 空港・港湾・地方有料
道路の財政分析－(2010)、250 ページ

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/3841/home.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

赤井 伸郎 (AKAI NOBUO)

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・
准教授

研究者番号：50275301